



「育休」と聞いて 皆さんは何をイメージしますか？

ちなみにわたしは・・・「ママの出産後の育児休暇」「収入が不安」「職場に迷惑がかかってしまうのではないか」など、どうしても不安なところが先に浮かんできてしまいます。ところがちょっと調べてみると色々とメリットがわかってきました。実は今、男性の「育休取得」を促進している企業が増えてきているのです。

男性の「育休取得」は、もちろん「家庭」や「お子さん」へのメリットが一番！ですが、「会社」や「社会」にとってもメリットがたくさんあるのです。

1 なぜ男性の育休が「会社」に良いの？

① 復帰後の職場で「マルチタスク」「タイムマネジメント」の能力がアップ！



おむつ替え、お風呂、発熱で病院へ・・・、子育ては待ってくれない「マルチタスク」です。育休の経験から、仕事でも効率良く時間を使うことを、強く意識するようになりました。

② 企業の「業績」アップ！

「この人しか出来ない」仕事を減らすことや、チーム内の「情報共有」など、業務の環境整備を進めることで、生産性の向上や売上げアップにもつながりました。「会社のイメージアップ」や離職率の低下、人材確保にもつながっています。



2 なぜ男性の育休が「社会」に良いの？

男性が家事、育児に積極的に参画することで、女性の「就労継続」や「キャリアアップの促進」、そして「出生率の向上」にも繋がります。子どもがいる夫婦で、**夫の休日の家事・育児時間が増えると、第2子以降の出生率が大幅に増加する**、というデータもあります。

3 男性の育休を促進している企業の3つの特徴

① 社員の不安を取り除く（制度をつくる、整える）

収入面の不安を感じる社員も多いため、取得を推進する企業の多くは、給与保障の取組を実施しています。「経済面の不安解消」のために、給与シミュレーションの実施や昇進には全く影響のないことをしっかりと説明している会社もあります。

また、例えば家事や育児の分担を決める「家族ミーティング」を会社側が主催したり、男性向けの「育休マニュアル」を作成したりすることで、具体的な対応策を解説することは、不安解消につながります。

② 社内の風土をつくる（トップ自らが積極的に取り組む）

経営トップが育休取得を促す姿勢を明確にし、メッセージを出すことで取得が進んだ事例が多くあります。

③ 上司から声掛けする

管理職や上司の、育休取得を促す声かけは効果的です。また、上司自らも率先して取得することで、取得しやすい風土を作ることができます。

コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書 ～誰一人取り残さないポストコロナの社会へ～

内閣府男女共同参画局では、「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」を開催し、様々な問題提起や提言が報告されました。

- 新型コロナウイルス感染症は、雇用や生活面で特に女性・女の子に深刻な影響を及ぼしている。
- 女性への深刻な影響の根底には、平時においてジェンダー平等・男女共同参画が進んでいなかったことがあり、コロナの影響で顕在化した。
- 今こそ幅広い政策分野でジェンダー視点を入れた政策立案が不可欠。女性に焦点を当てて、我が国の課題を明らかにし、既存の制度や慣行の見直しを。

『コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書』の詳しい内容は、
内閣府男女共同参画局ホームページからご覧いただけます。

<https://www.gender.go.jp/kaigi/kento/covid-19/index.html>

QRコードからもアクセスできます →



「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」報告 令和3年6月29日13:00~15:30 リモート開催

男女共同参画の中央行事として、内閣府男女共同参画局主催で開催されました。丸川珠代内閣府特命担当大臣のあいさつでは、「女性も男性も一人ひとりが、お互いを尊重しながら、固定観念にとらわれない自由な発想で、あらゆることを主体的に選択でき、自分らしく生きられるようになることがとても重要です」と述べられました。

男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰式、特別応援メッセージは、昭和女子大学理事長・総長の板東真里子さんから「女性の活躍は海外と比べてまだ遅れており、**一人ひとりが性別役割分業への思い込みから離れて、小さくても声をあげることが、これからの新しい男女共同参画社会を作る**」とお話がありました。

「いま」を生きるみんなで築いていく男女共同参画社会とは？というテーマで、様々な分野からのパネリストが全ての人が輝ける社会のためにできることのキーワードを出し、お話されました。パネリストからは、「**まず自分自身の声を聞くことを大事にしてほしい。そして、自分だけではなく、相手の声にも耳を傾けてほしい。**それが固定観念を捨てるための第一歩となる」「**「私だから」を最大限発揮できる生き方・多様性って何だろうと考えていけると良い**」など、様々な意見が発表されました。

コーディネーターは「下の世代がより生きやすい時代にしていきたい。それが**「女だから、男だから、ではなく、私だから、の時代へ。」**と繋がっていく」と締めくくりました。



令和3年度「男女共同参画週間」
キャッチフレーズ

編集 伊勢原市男女共同参画推進委員会
編集部会

発行 伊勢原市人権・広聴相談課
人権・男女共同参画推進係
伊勢原市田中 348
電話:0463-94-4716(直通)
FAX:0463-92-9009
E-mail: jinken@isehara-city.jp

【編集後記】

昨年度は、これまで想像にもしなかったコロナ感染流行で始まり、終わってしまいました。長引く自粛要請の中、1年前には打つ手なし！であった事に対して前向きにいろいろな試みがあり、こういうやり方もあるのだと気づかされました。

余談ですが、昨年度から委員になりました。会議に参加するも、各委員のマスク着用のお顔しか知りません。マスクが必要なくなった時が楽しみ(笑)です！